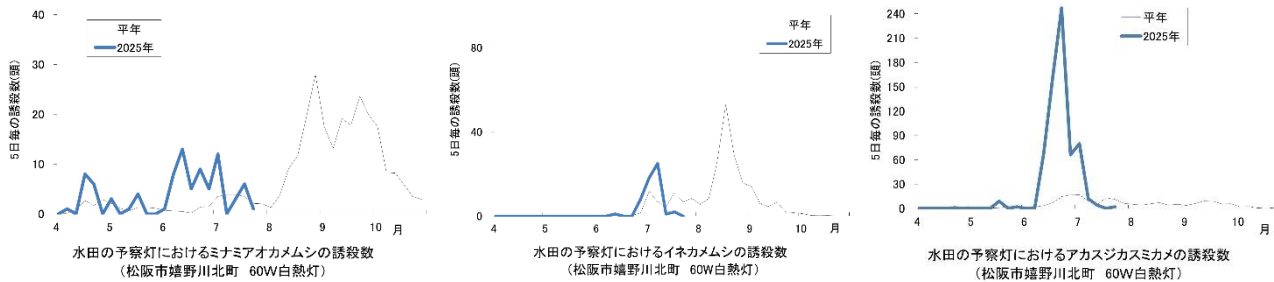


令和7年産米品質改善技術情報 第2報

斑点米カメムシ類の注意報が発令！

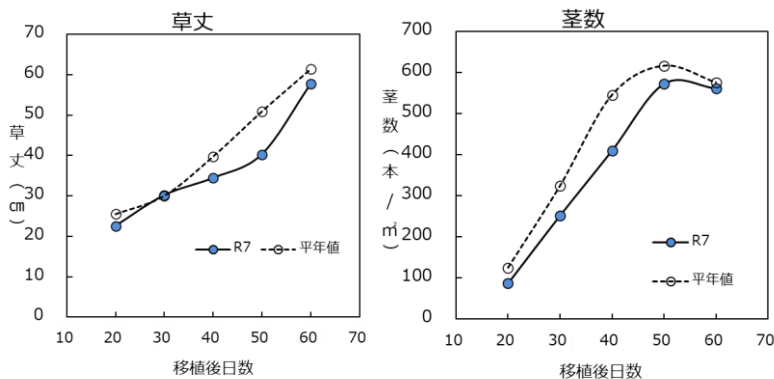
今年度はイネカメムシ等の斑点米カメムシ類が多く発生しています。出穂直後の加害は不稔粒の発生原因となり、減収の原因となります。また、登熟期の加害は斑点米を発生させ、玄米品質の低下を招きます。適期に防除を実施しましょう。



斑点米カメムシ類の発生活消長(三重県病害虫防除所、7月21日発表)

出穂直後に1回目の散布を行った場合、その2週間後が2回目の散布適期となります。
※薬剤の感受性低下を防ぐため、異なる系統の薬剤をローテーションして使用しましょう。

7年産の生育状況と成熟期予測



生育調査結果(農業研究所内圃場、コシヒカリ)

表1 予想される成熟期

移植日	コシヒカリ	みえのゆめ
4月10日	8/10(-5)	-
4月20日	8/14(-5)	-
4月30日	8/20(-5)	-
5月10日	8/24(-5)	9/2(-5)
5月20日	8/31(-5)	9/8(-3)
5月30日	-	9/14(-4)

注1)メッシュ農業気象・水稻生育予測システム ver2.0による予測値。注2)予測場所は農業研究所(松阪市嬉野)注3)予測日:7月23日。注4)カッコ内は過去10年間の平均値との比較。

7年産「コシヒカリ」は、低温や日照不足により生育が遅れていましたが、5月中旬以降が高温であったことから、現時点の生育は概ね平年並みとなっています(農業研究所内圃場)。また、高温の影響により出穂期が平年より早くなったため、成熟期についても「コシヒカリ」で平年より5日早く、「みえのゆめ」で平年より3~5日早くなる見込みです。

今後の栽培対策として、カメムシの防除とともに、適正な水管理にも注意しましょう。

令和7年7月24日
三重県産米品質改善対策会議